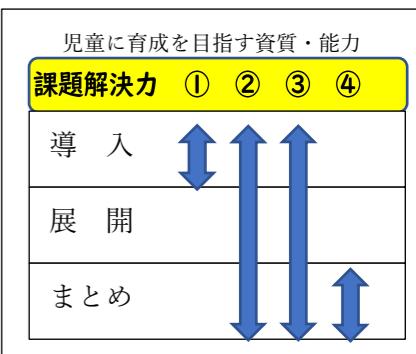


令和7年度 立川市立新生小学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標	<p>◎自ら学びを創る子ども ○温かい人間関係を創る子ども ○たくましく気力、体力をつくる子ども</p>
---------	---

児童に育成を目指す資質・能力	複数の教科や学年全体に共通する取り組み 新生授業スタンダード
①課題意識をもち問題を見発見する力 ②根拠を明確にして考え・表現する力 ③比較・関連付ける力 ④学んだことをまとめ次につなげる力 ⑤基礎的・基本的な力	<ul style="list-style-type: none"> ○課題意識(問い合わせ)をもたせて、個の学びやグループ・ペアによる学び合い学習を取り入れるとともに、既習事項や事実を生かして、複数の事象を比較・関連させて思考・表現できる場の設定を重視する。 ○思考・表現できる場を設定する際には、ICT機器を効果的に活用して、言葉や文に着目させ、読む、書く、話す、聞く活動を重視するとともに、児童に学習を委ねる場面を工夫して的確に位置付ける。 ○一単位時間のまとめの段階では、自己評価の内容・方法を工夫し、自分自身を振り返り、学んだことをまとめるなど、次の学習につなげていくとともに、自分のよさを自覚し發揮できる場を的確に位置付ける。 ○タブレットPCやデジタル教材を活用し「のびっこ」の時間やパワーアップタイム、一単位時間の最初や最後の時間で繰り返し学習等の場を的確に位置付ける。(自宅学習も含める)



教科	教科で育成を目指す資質・能力 (学習指導要領より)	資質・能力を育成するための具体的な取組(学習活動など)		
		低学年	中学年	高学年
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○日常に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができる力。 ○日常における人との関わりの中で、伝え合うことができる思考力や想像力。 ○単元を通じた課題を見付け、学び方を選びながら自律的に課題を解決していく力。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活場面など、児童にとって身近な場面を提示し、学習意欲を高める。(①) ○文章中の言葉を根拠として自分の考えを表現させる。(②) ○ペアやグループでの活動等、児童に学習を委ねる場面を作り、自分の意見をもち、伝えたり、友達との相違に気付いたりする中で課題解決に迫ることができるようになる。(②・③) ○漢字の書き取りや言語の使い方は、反復練習させ、定着を図る。(⑧) 	<ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」の学習では、初発の感想で考えのずれが生じるような発問を投げかけ、問題意識の醸成を図り、学習意欲を高める。(①) ○説明文や物語文の学習では、児童に課題解決の方法を考えさせ、根拠と理由を区别し、「主張」と「根拠」をつなぐ「理由」を書かせるようになる。(②) ○児童に学習を委ね、ペアやグループの話し合いの中で、互いの考えを比較・関連させて考えを深め、課題解決に迫る時間を設定する。(③) ○単元の終わりに観点を明確にした振り返りシートを用い、新たに身に付けた「論理的な読み方・書き方」をメタ認知できるようにする。(④) 	<ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」の学習では、初発の感想で考えのずれが生じるような発問を投げかけ、問題意識の醸成を図り、学習意欲を高める。(①) ○児童が課題解決の方法を考え、説明文や物語文の学習では、叙述をもとに、「関係性」(序論・本論・結論の関係や登場人物の相互関係)をとらえたり、「具体と抽象」を意識して読んだりすることで、主張や主題を読み取ることができるようになる。(②) ○児童に学習を委ね、ペアやグループの話し合いの中で、他の者の考え方と比較したり関連付けたりしながら思考を深めることができるようにする時間を作れる。(③) ○漢字練習では、熟語や文中での活用方法などを理解しながら書くことを指導する。また、定期的にテストを行い定着を図る。(⑧)
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○地域や我が国の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能。 ○社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力。 		<ul style="list-style-type: none"> ○単元の導入では、学習対象についてのクイズを通して、「知っているようで知らないこと」を認識し、自ら学習課題を設定できるようにする。(①) ○学習過程で地図・グラフ・新聞など様々な形式で表現する場面を作る。(②) ○複数の資料を提示し、比較・関連付ける場を設定する。(③) ○本時で新たに学んだことを確認し、次に学習したいことを一言感想に書かせる。(④) 	<ul style="list-style-type: none"> ○事象との出会いにより生まれた「問い合わせ」を基に学習問題をつくることができるようになる。また、学習問題に対する予想を立て、その解決に向けた学習計画をつくることができるようになる。(①) ○資料や教科書の内容を確認する際、資料と重要語句を関連付けて捉えざるとともに、その背景にも目を向けられるようになる。(②③) ○新たに学んだことを振り返り、大切な部分を自分の言葉でまとめさせる。(④)
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○数量や图形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能。 ○日常の事象を数理的にどう見通しをもち筋道を立て考察する力、基礎的・基本的な数量や图形の性質などを見いだし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・適確に表したり、目的に応じて柔軟に表したりする力。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ICTを活用して、課題意識をもち、問題解決に取り組むことができるようになる。(①) ○友達の発言を繰り返せたり続きを言わせたりして、考えを共有できるようになる。(②・③) ○授業の最後に「振り返り」の時間を設け、学んだことや、もっと知りたいこと、新しく生まれた問いをノートに記述させる。(④) ○授業の最初に、前時に学んだことを振り返る時間を設ける。また、授業の終盤で類似問題に取り組ませ、本時の課題の定着を図る。(⑧) 	<ul style="list-style-type: none"> ○文章問題では、大事なところに印を付けたり、線を引いたり、図に表したりして、それを基に立式する活動を取り入れる。(①) ○問題解決にあたり、自分の考えを書く自力解決の時間をを作る。(②) ○具体物などを用意し、比較・関連付ける力を身に付けさせる。(③) ○毎時間の終わりに類似問題に取り組ませ課題の定着を図るとともに、東京ベーシック・ドリルや計算プリント等に繰り返し取り組ませ、基礎的な計算力を定着させる。(⑧) 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決に向けて、構想や見通しを立て、学習問題の中から思考すべき問い合わせを見いだす。(①・②) ○個の学びやグループ・ペアによる学び合い学習を取り入れることで、根拠を明確にして表現する力を伸ばす。(②) ○一つの問題について探究した後、数値が異なる問題について繰り返し考え、学習を深められるようになる。(③) ○学習した内容を自分の言葉でまとめる時間を確保し理解を深めることができるようする。(④) ○毎時間の終わりに類似問題に取り組ませ課題の定着を図るとともに、東京ベーシック・ドリルや計算プリント等に繰り返し取り組ませ、基礎的な計算力を定着させる。(⑧)
理科	○自然の事物・現象についての知識及び、観察、実験などに関する基本的な技能。		<ul style="list-style-type: none"> ○主体的な学びを実現するために、児童にとって身近な場面と結び付けながら学習課題を設定する。(①) ○観察、実験などを行い、問題解決の力を養う。(②・③) ○自然の事物・現象から見いだした問題について、根拠をもって考えや仮説を説明できるように、既習の内容や生活経験を基に考えさせる。(②) ○問題解決の場面では、事象を比較した上で、思考・表現できる場を設定する。(③) 	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的な学びを実現するために、児童にとって身近な場面と結び付けながら学習課題を設定する。(①) ○観察、実験などで、根拠のある発想や仮説が立てられるように、既習の内容や生活体験を基に考えさせたり、学習の終わりには学習単元のポイントをまとめさせたりする。(②③④) ○理科に関する用語を別の色で板書したり、家庭学習でも既習内容を振り返るよう働きかけたりして、正しい言葉を覚えさせる。(④)
生活	<ul style="list-style-type: none"> ○活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能。 ○身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができる力。 			
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○曲想と音楽の構造などの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能。 ○音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聞くことができる力。 		<ul style="list-style-type: none"> ○課題を明確にし、ペアによる学び合いの場を生かしながら児童の学習意欲を高める。(①) ○音楽を聴いて感じ取ったことや気付いたことを言葉で表現したり、共有したりする場を設定し、思いや意図をもって表現できるようになる。(②③) 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題を明確にし、ペアやグループによる学び合いの場を生かしながら児童の学習意欲を高める。(①) ○常時活動や掲示等で既習事項を確認し、自分の考えを伝え合いながら思いや意図をもって表現できるようになる。(②③)
図工	<ul style="list-style-type: none"> ○対象や事象を捉える形態的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくりたり表したりすることができる力。 ○造形的なよさや美しさ、表したこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をし、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることができる力。 	<ul style="list-style-type: none"> ○手や体全体の感覚を働かせられる材料や用具を使う題材を設定し、児童の学習意欲を高める。(①) ○自分なりの表現を目指し、試行錯誤を通して表現できるようになる。(②) ○自他の作品のよさや楽しさに気付き、認め合える授業を展開する。(③) 	<ul style="list-style-type: none"> ○手や体全体の感覚などを十分に働かせられる材料や用具を使う題材を設定し、児童の学習意欲を高める。(①) ○豊かに発想や構想をし、自分なりの表現を目指し、試行錯誤を通して表現できるようになる。(②) ○他者とのかかわり合いを通して自他の作品を鑑賞し、自分の見方や感じ方を広げることができる授業を展開する。(③) 	<ul style="list-style-type: none"> ○材料や用具を活用し、表し方を工夫できる題材を設定し、児童の学習意欲を高める。(①) ○創造的に発想や構想をし、自分なりの表現を目指し、試行錯誤を通して表現できるようになる。(②) ○自他等の作品における対話的鑑賞から自分の見方や感じ方を深められる授業を展開する。(③)
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて日常生活に必要な基礎的な知識及び、それらに係る技能。 ○日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、問題を解決する力。 			<ul style="list-style-type: none"> ○具体的な提示、映像資料の活用、ペアでの教え合いなど様々な方法で技能を習得できるようになる。(①②③) ○家庭と連携し、学習したことを日常生活の中で振り返ることができるようになる。(④)
体育	<ul style="list-style-type: none"> ○各種の運動(遊び)の楽しさに触れ、その行い方の知識及び、基本的な技能。 ○各種の運動(遊び)の行い方を工夫するとともに、考えたことを他者に伝える力。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が「やってみたい!」と思うような場の設定を工夫する。(①) ○よい動きをしている児童を取り上げ、全体でコツを共有する場を設定する。(③) ○振り返りの時間を設け、できるようになったことや次にやってみたいことを考え、課題意識をもって学習に取り組むことができるようになる。(①④) ○基礎的な動きを共有し、繰り返し練習する時間を毎時間設ける。(⑧) 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動の楽しさを実感できる活動を多く取り入れ、学習意欲を高められるようになる。(①) ○自分や友達の動きを動画で撮影し、お互いに見合ったり、教え合ったりして、学習の質を高められるようになる。(①②③) ○自分や友達のよいところを伝えたり、改善点を丁寧に言ったりするなど、安心して意見を言い合える場を設定する。(③④) 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動が苦手な児童でも楽しめるようにスマイルステップで学習に取り組めるようになる。また、児童同士がアドバイスし合う場面を設ける。(①②③) ○タブレットPCを活用して自分の動きを撮影し、参考になる動きと自分の動きを比較し、修正しながら次の学習につながる力を身に付ける。(③④) ○運動におけるポイントを示し、児童が考えたり、意識したりするべきところを明確にする。(①②③④)
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能。 ○コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたらり、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力。 		<ul style="list-style-type: none"> ○絵カードや歌等を効果的に活用して児童の興味・関心を高め、繰り返し表現に慣れ親しませ、自信をもって発話できるようになる。(①) ○必然性のあるやり取りの中で、表現に慣れ親しみ、コミュニケーションの楽しさを実感できるようになる。(①) ○興味・関心をもつことができる身の回りのものや自分のことを題材にし、自分の考えと気持ちなどを伝え合う場面を設定する。(①) 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎時間、ゲームやロールプレイの活動を取り入れ、英語に親しみをもてるようになる。(①) ○英語を使う必要性のある場面を設定し、授業の中でたくさんの英語を使うような活動を取り入れる。(①②) ○英語を使って話すことに慣れるために、発表する時間を単元の最後に取り入れる。(③④)

